

平成30年度 第1回温海地域振興懇談会 会議概要

- 日 時 平成30年5月30日（水） 午前10時～午前11時35分
- 会 場 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
- 次 第
1. 開 会
 2. あいさつ
 3. 報 告
 - (1) 平成30年度温海地域主要事業及び地域まちづくり未来事業について
 - (2) 鶴岡市第2次総合計画並びに温海地域振興計画、温海地域まちづくり未来事業計画の策定について
 4. 協 議
 - (1) 温海地域振興計画の実施状況について
 - (2) これからの10年で温海地域の活性化に重視したい着眼点について
 - (3) その他
 5. 閉 会

○公開・非公開の別 公 開

○傍聴者の人数 1名

○ 委員発言の概要

【これからの10年で温海地域の活性化に重視したい着眼点について】

A委員

- ・交流を核にした地域振興に関連し、5月に仙台市と札幌市の中学校2校（計約300名）の教育旅行を誘致した。教育旅行の誘致は将来的なリピーターのきっかけと期待している。
- ・今後も誘致に取り組んでいるNPO法人の活動支援をお願いしたい。
- ・できることを一つ一つ着実に進めることが大切だと思う。

B委員

- ・所得がないところに生活が成り立たないわけで、地域の所得を上げるという着眼点も必要ではないか。
- ・（温海地域は）山形県の平均気温より2度ほど高いわけで、農業関係を中心に所得を上げる施策、特に高速道路近隣の施設産業を充実させるべきと考える。
（会長コメント）
- ・温海地域の急激な人口減少は、若者が働ける（チャレンジできる）場所や企業が少なくというのが大きな要因と感じている。
- ・雇用の場をどのような形で作っていくかということも重要な着眼点であると思う。

C委員

- ・資料を提示されたが、急激な人口減少に驚いている。
- ・若い人たちが定住できる場所や環境づくりを進める必要がある。
- ・平成24年に日浴道があつみ温泉ICまで開通し、あつみ温泉の観光客数が増加したが、その時点で受入体制としてもっと出来ることがあったのではないかと振り返っている。観光客が増えても温泉街にお金を落とす場所がない。お金を落とす場所がなければ地域も潤わない。その停滞が現在表れている気がする。
- ・日浴道の温海一鼠ヶ関間も着工されたが、開通後の対策を今から考えないと手遅れになるわけで、それを加味した計画をしっかりと作るべきと思う。
（会長コメント）
- ・若い人たちが楽しんで働ける場、若者のニーズを考慮した働く場をいかに作り上げていくかがポイントになってくるのではないか。

D委員

- ・過疎になるということはそれなりの要因があり、温海地域を出ていく方に聞いてみると「商店がない、医院がない、職場がない」という悪い部分がたくさん出てくる。その過疎となる要因を一つずつ解決していけばいいのではないかとということで現在様々取り組んでいる。
- ・商店対策としては、生協から移動販売を実施してもらっており、医療対策については温海地域の開業医から公民館に定期的に来ていただいている。
- ・コミュニティの関係では「自治会費が高すぎる」ということで、市街地だと500円程度の負担で済むところが、当自治会では数千円の負担になる。できるだけ自治会費を下げる努力はしているが、大きいセンターを抱えていると固定経費が掛かるため簡単ではないのが現状である。
- ・伝統文化の関係では、「木野俣獅子踊り」の人数確保が容易でないため、転出した方か

らも協力を得ている。今後は周辺自治会とも相談しながら維持していく方法を検討したい。

- ・全国的な人口減少社会の中、今住んでいる人が楽しく健康に暮らしていくにはどうすれば良いのかという視点で考えるべきではないかと常々思っている。

E 委員

- ・温海地域婦人会と婦人連絡協議会から脱退する組織が多く残念に思っている。温海地域婦人会の会員も年々減少している。各地域の活動で女性の果たす役割は大きいですが、適齢の女性の絶対数の減少は心配である。
- ・これまで、社会教育に対する施策が市として十分でなかったのではないかと感じている。特に、婦人会、老人クラブ、青年団等の活動を見過ごしてきたのではないかと。
- ・温海地域の空き店舗や温泉を活用し、高齢者向けの楽園づくりのような施策で、あつみ温泉を活性化していけば、人口減少に歯止めが掛るのではないかと。

(会長コメント)

- ・社会教育に対する施策が十分でなかったという指摘に関連し、10年後を見据えた計画を策定するに当たり、若者との意見交換の場がもっと必要と思う。

F 委員

- ・民生委員の立場から、子育て世代や高齢者に関する施策はありがたく、関連予算の確保を望む。
- ・現在住んでいる人の幸せを確保する視点が重要で、それにより「温海地域の良さ」の発信に繋がるのではないかと思う。
- ・地域から転出した人の協力を得て伝統文化を継承するやり方も、これからは有効であると感じた。
- ・高齢者の移動手段に関しては、小型・中型のバスを活用し乗継に配慮した地域交通や、各地域の実情に合わせた移動手段の確保をお願いしたい。

G 委員

- ・（他地域と比較すると）温海地域には働く場が少なく、人口減少（若者減少）の大きな要因となっている。
- ・あつみ温泉の「歩いて楽しい温泉街」を進める過程で、旅館青年部の浴衣プロジェクトなど新たな取組みが始動しており、若者がアイデアを出しやすい雰囲気、それを応援していく体制が重要と感じている。
- ・山大農学部等ともコラボレーションしながら、新「道の駅」などの「出口」を見据え、旧温海高校を活用した高付加価値農業（水耕栽培など）を展開できないかと考えている。農業収入アップにも繋がるし、昨今の鳥獣被害対策の一助にもなるのではないかと。

(会長コメント)

- ・体験型・滞在型というのが一つのキーワードと思うが、日沿道の開通や新道の駅構想に関連し、鼠ヶ関周辺で「こんなことをやってみては」「こうやったら若者がはりきって集まるのでは」というような意見やアイデア等はないものか。

A 委員

- ・有名な理容師が、鼠ヶ関に研修施設を設置し理容関係者を集めつつ活性化しようという動きがある。
- ・首都圏等で活躍している地域出身の方々から地域活性化のお手伝い(応援)していただくよう働きかける施策はどうだろうか。
- ・鼠ヶ関では「放課後子ども教室」を開いているが、働いている子育て世代の一助になっていると思うし、そういった取り組みの支援が必要。
- ・恋する灯台に認定された鼠ヶ関灯台を活用した企画やPR等もやっていきたい。
- ・鼠ヶ関IC周辺に計画されている新道の駅は、今後温海地域の活性化において大きな起爆剤の一つになる。農協、漁協などの各種団体や地域が一丸となり進めることが、産業振興、雇用確保の観点からも大切なことではないか。

(会長コメント)

- ・新「道の駅」について、「しゃりん」との関わり等計画進行状況はどうなっているのか。

支所長

- ・鼠ヶ関インター近郊の道路休憩施設について、最終的には「道の駅」という制度を使うことを目指している。
- ・雇用や所得の確保という点で、地元の参画も含め、いかにプロデュースしていくかを念頭に各種団体との協議を進めている。
- ・商品開発については、「試せる」という点で「道の駅しゃりん」の存在を活用したい。
- ・高速道路が開通すれば国道7号線の交通量は大幅減が予想される。今の形での「しゃりん」の運営は困難と思われるが、ロケーションを活かした次のステップを併せて考えていかなければならない。
- ・高速道路開通のスケジュール的なものが見えてこない中で、動きづらいのが悩みである。賑わっている「道の駅」を視察するなど、全体の運営を官民ともに考えていかなければならない。

(会長コメント)

- ・女性が暮らしやすい地域にしていくには。

E 委員

- ・ボランティアで植栽活動を行っている。また、ばら園の再生に関連し、高齢者も楽しめるように、温泉街の空き地を活用したばら園の拡大はどうか。そういったふうきれいな環境で過ごせることが女性にとってはありがたい。
- ・生活の心配をしなくても良い環境も、女性にとって大事だと思う。
- ・温海地域の女性は時間があれば働くことを惜しまない方々であり、働ける場所があれば、元気な方は働きながら自分の生活をエンジョイできる。それが一番だと思う。余力で婦人会や若妻会、商工会の婦人部等の活動に参加できるような地域であれば良いと思っている。

(会長コメント)

- ・若い女性たちどんな考えを持っていると思うか。

E 委員

- ・男性もそうですが、結婚したいという意思も伝えないし、結婚したいと思っていないのではないか。
- ・自由にお金を使える環境を好んだり、コミュニケーションの欠落で女性との関わり方がわからない、面倒だと思っている男性も増えていると思う。

(会長コメント)

- ・これまでの委員意見に、廃校跡の活用という視点があったが、旧福栄小学校に、松ヶ岡関連の養蚕を取り入れる事業が進んでいるようだ。鶴岡はシルクの街でもあるので、是非大々的に展開してもらいたい。

B 委員

- ・今後の進め方に関連し、意欲のある若者を集め、徹底議論してはどうか。

会長

- ・今日の会議は少々時間が足りなかった感があるが、今後2回、3回と議論や意見交換を深めていきたい。